



大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（４）

～ やる気高める目標設定について ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦

突然ではありますが、皆さんの今年の目標は何ですか。また、お子さんの目標をご存じですか。本紙（1月7日付）「記者席」の記事を紹介します。【3学期がスタート。野底小学校で児童らが今年の一文字を選んだ。宇根香代子教諭は「例えば先生の去年の字は『前』。選んだ時は世の中がこんなに変わると知らなかったけど、一年間、この字のおかげで、前だけ見て進もうと頑張ってきた」とふり返り「最初に決めた言葉に後から意味がついてくることもある」と話した。あなたの今年の一文字は？】

宇根教諭は、『目標を設定したことで、世の中の状況が変わっても「前へ」進むことができた』と言っています。つまり、今年の目標を設定することで行動に対する意欲づけができ、文字の通り「前」へ進むことができたのではないのでしょうか。

石垣市教育委員会「勇気づけの教育」では、自己肯定感を高めるサイクルで「目標設定」を大切にしています。そこで、第4回は「子どものやる気高める目標設定」について考えたいと思います。

はじめに、目標の立て方ですが、目標は子どもの意志で決めることが大切です。子どもは、常に主体的に行動したいという欲求を持っており、「大人から〇〇しなさい」と言われるよりも、自分で立てた目標に向かう方がより意欲的に取り組みます。しかし、目標設定を子どもに完全に任せるのではなく、その目標は適切かどうか、無理がないかどうかを親子で話し合いながら決めることが大切です。車のナビで例えると、目的地入力間違い、実際に行きたい目的地にはたどり着けません。しかし、設定した目的地が明確であれば、渋滞や通行止めなどがあって、迂回するハプニングがあったとしても必ずゴールにたどり着くことができます。

次に、目標には長期目標と短期目標があり、この2つ目標を立てることが大切です。

長期目標は「自分はこうなりたい」という最終ゴールになり、短期目標は「そのために何をしたらよいか」の実践目標となります。例えば、「国語の力をつける」ために、「漢字の練習を毎日10分間がんばる」「1週間に本を3冊読む」、また、「サッカーで優勝する」ために「毎日15分フリッピング練習をする」「週に2回、持久力をつけるためのランニングをする」等があげられます。このように、「いつ」「何を」「どれぐらい」と取り組む時間と量を設定すると、目標に対して、現在やるべきことが明確になりますし、取り組みを評価しやすくなります。

加えて重要なのが、子どもの目標達成意欲を持続させる保護者の言葉かけです。子どもが目標を立てたのなら「どんな調子？」と声をかけます。励ましのポイントは、目標を達成できたかどうかの「結果」ではなく、目標に向かって取り組む「過程」で子どもの成長した部分を見つけて認めることです。

「前より上手にできたね」「進んで取り組めるようになったね」と子どもの成長をほめることで、子どもは「自分がんばればできるんだ」という自己肯定感が生まれ、次の目標への意欲が高まっていきます。ぜひ、ご家庭で子どもの目標を共有し勇気づけていきましょう。